

◆ 姫路市にある坊勢島でバリアフリー教室を開催しました

神戸運輸監理部交通みらい室では、兵庫県内の小中学生を対象にバリアフリー教室を開催しており、自ら高齢者や障害者の疑似体験や介助体験をすることで、バリアフリーの必要性を理解するとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者や障害者に対して自然に快く「お手伝いしましょうか」と声をかけてサポートのできる「心のバリアフリー」を推進しています。

今回は、令和5年9月22日（金）に、姫路市立坊勢中学校において、1年生17名を対象にバリアフリー教室を開催しました。

バリアフリー教室では、坊勢島の玄関口である旅客船ターミナル「坊勢漁港ふれあいプラザ」と、姫路～坊勢航路を運航する旅客船「クィーンぼうぜ」にて、車いすの自走・介助体験と聴覚障害に関する座学を行いました。



【バリアフリー教室の様子】



【車いす体験の様子】

車いす自走・介助体験では、監理部のスタッフが操作方法や声かけの重要性を説明した後、「坊勢漁港ふれあいプラザ」のスロープや段差等において、生徒が実際に車いすに乗って、自走体験と介助体験を行いました。

また、旅客船「クィーンぼうぜ」を使用し、坊勢輝汽船株式会社の船員から、車いす利用者が乗降する際の介助等についての説明を受け、実演してもらった後、生徒の代表が乗降体験を行いました。

生徒からは、「少しの段差であっても、スムーズにのぼれないことを初めて知った」、「車いすの人について、まだ配慮されていない場所や、少しも考えていない人も多くいると思うから、車いすの人たちの大変さを教えたり、自分もより知って教えられたりしたい」、「車いすを1人で押すこともできたが、段差や坂は難しいので、人の助けが大切だと思った」等の感想がありました。



【車いす体験の様子】



【座学の様子】

聴覚障害に関する座学では、当事者の方をお招きし、自身の日常生活における工夫、駅や電車におけるバリアフリーの設備、多様なコミュニケーションの方法といった様々なお話を、クイズや手話の体験も交えながらしていただきました。

生徒たちは、お話に対して真剣に耳を傾けていました。

生徒からは、「人それぞれ聞こえ方が違って、手伝ったら良いことも違うのは知らなかった」、「難聴の人のためにも、ジェスチャーをすることを意識したい」、「出かけた場所で、もし体に障害がある人がいたら、困っていないかを見たい」、「手話を覚えている人はかっこいいと思うから、手話を覚えて、日常で役立たせたい」等の感想がありました。



【座学の様子】

坊勢中学校の生徒からは、バリアフリー教室の全体を通して、「バリアフリーはどんなところにあって、どんな人のためなのかを考えたいと思った」、「耳が聞こえなかったり、足や目などが不自由だったとしても、その人たちを差別するのはおかしいと思うから、差別をせずに同じように生活していきたい」「坊勢にどのようなバリアフリーがあるのか調べてみたい」、等の感想が寄せられています。

本教室で、障害者・高齢者の気持ちを理解するとともに適切な介助方法を学ぶことで、日頃からお手伝いしようという気持ちを持ってもらうことができました。

交通みらい室では、今後も様々な取り組みにより、「心のバリアフリー」の推進を図っていきます。

(企画推進本部 交通みらい室)